

石 すとん・さーくる

No.97

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子)

2016年10月20日 発行

事務局 ☎945-0837 柏崎市三島町16-2

ホームページ <http://niigata-sekibutu.voxx.jp>

石 仏 散 歩

佐渡市相川弾誓寺の「南無阿弥陀仏・南無法蓮華経」並列石塔について

佐渡市 北 見 繙 仁

佐渡市相川四町目にある弾誓寺（天台宗）は、木食上人弾誓の弟子である長音によつて、寛永十三（一六三六）年に開基した寺として知られている。本尊は阿弥陀如来坐像で、像の高さは約四六〇cm、佐渡随一の巨像である。このことから弾誓寺は別名「大仏」（おおほとけ、おほとけ）と呼ばれている。また、毎年旧六月十五日には大仏の回向が行われ、全島から多くの信者が集まつたという。

境内に入る階段を上り山門をくぐると、本堂の左側に「南無阿弥陀仏・南無法蓮華経」と刻まれた二基の石塔が建立されている。

右側の石塔（写真①）は、高さ一一六cm、幅七〇cm、台石の高さは五〇cmである。これは伝染病であるコレラに罹つて死亡した人の供養塔である。背面は風化して読みづらいが、上部には「明治十二年八月ヨリ九月迄 各靈供養塔 虎列刺病ニ罹死 二百七拾二人」とあり、続けて「有志名前」として相川町内ごとに約四〇名の名前が刻まれている。更に「當山十一世癪阿比丘實須代」とある。

日本で最初にコレラが流行したのは文政五（一八二二）年と言われ、さらに安政五（一八五八）年にも大流行し、江戸だけでも二〇万前後の死者が出たという。この石塔が、相川でも明治期に入つてコレ

ラ罹災者が数多く出たことを物語つてゐる。

もう一つの左側にある石塔（写真②）は、高さ一七〇cm、幅九八cm、七三cmの台石で、これも背面に線彫りの文字があるが、読みづらい。

天台宗の総本山である比叡山延暦寺は、古くから仏教における総合大学的な存在であり、鎌倉時代には浄土宗の法然、浄土真宗の親鸞、日蓮宗の日蓮、禅宗の道元・栄西などを輩出している。比叡山では、「朝題目、夕念佛」と言われるよう、修行の一環として「南無法蓮華経」（題目）や「南無阿弥陀仏」（念佛）が普段から区別なく唱えられてきている。

この二基の石塔は、コレラ供養はもちろんのことであるが、天台宗の宗旨が影響されて建立されたと考えられる。また、島内でもこのような「南無阿弥陀仏・南無法蓮華経」が並列で彫られている石塔は、この弾誓寺のものだけではないかと思われる。



写真②



写真①

秋田県南地方の 藁人形と石仏を歩く

新潟市 武田辰夫

平成二十五年に新潟県石仏の会に入会後、初めての有志一泊見学会に高橋信男さんと一緒に七月十六・十七日参加いたしました。

各地からの有志一九名と江戸時代後期に秋田を旅した国学者・旅行家菅江真澄の足跡を訪ね、時の移ろいを感じながら夏の秋田県南地方の湯沢市・横手市・大仙市の鹿島様や仁王様と呼ばれる藁人形や石仏を見



大きな鹿島様の前で（湯沢市岩崎・八幡神社）

学いたしました。

鹿島様は「武神」を象徴した藁人形で、東北地方の村落に多く祀られています。

岩崎地区の鹿島様は数百年前から伝えられており、高さ四メートルほどの巨大なものです。古来より鹿島様は村の入口に祀られ、他所からの邪惡な靈や人、疫病の侵入を防ぐと信じられてきました。岩崎では春と秋の二回、衣替えをする「鹿島祭り」を行い、願を鹿島様にたくしています。

秋田県南部では鍾軌様の呼称をもつ藁人形の地帯に、鍾軌の御札が併存していることが特徴です。それは新潟県南蒲原郡のショウウキ様とも共通しています。

それぞれの土地の藁人形は、おのおの表情があり、現在も村落の人々の信仰を一心に集めている大切な地域のシンボルです。稲作農業がもたらした民族文化の芸術です。



小さな鹿島様（横手市雄物川）



三吉像（横手市十文字町）

初めて出合った「荊島の三吉像」は、造立年代は不明ですが、像塔は珍しく後背の彫刻はすばらしい。人々は何を三吉像に求めたのでしょうか。佐々木源藏氏（昭和十二年生まれ）のお話によると、集落の守り神として、村の入口に祀っているそうです。石仏は庶民が自ら造立したもので、願い事があれば気軽に石仏を拌むことができます。悩みや苦しみがあれば直ぐさま石仏にすぐることができます。人々の切実な願いが、多種多様な石仏を生みだし、それに関わる信仰行事も郷土色豊かです。この地に生きた先人の活気に満ちた息づかいと祈りにふれることができた一泊見学会でした。

この日のために秋田へ出向きて下見をしたり、見学先の資料を作成してくださった大樂和正さん、この企画を立案された事務局長渡邊三四一さんら二人のおかげで楽しい有意義な秋田の旅でした。改めて心からお礼申し上げます。

初めて出合った「荊島の三吉像」は、造立年代は不明ですが、像塔は珍しく後背の彫刻はすばらしい。人々は何を三吉像に求めたのでしょうか。佐々木源藏氏（昭和十二年生まれ）のお話によると、集落の守り神として、村の入口に祀っているそうです。石仏は庶民が自ら造立したもので、願い事があれば気軽に石仏を拌むことができます。悩みや苦しみがあれば直ぐさま石仏にすぐすることができます。人々の切実な願いが、多種多様な石仏を生みだし、それに関わる信仰行事も郷土色豊かです。この地に生きた先人の活気に満ちた息づかいと祈りにふれることができた一泊見学会でした。

この日のために秋田へ出向きて下見をしたり、見学先の資料を作成してくださった大樂和正さん、この企画を立案された事務局長渡邊三四一さんら二人のおかげで楽しい有意義な秋田の旅でした。改めて心からお礼申し上げます。

名工 藤原直隆・一智の足跡 —中越地区見学会に参加して—

村上市 鈴木悟司

ただ、ただ、圧倒された一日でした。先月、参加させて頂きました柏崎の石仏見学会での藤原直隆、一智親子の遺作の数々……。

便利な道具の無い時代に先人の石工は、手作業・石工道具だけで、素晴らしい石仏を残されていきました。文字の彫りも手彫りなのに深い文字の強弱が、きちんと彫りだされている。

あの石仏の衣の曲線は、狛犬の足のすかし彫りは……。ただ事実なのは、みんな手彫りで彫り上げていったということです。天然石に眠っている神仏のお姿をただ浮き出しにして彫り上げてきたような無駄のない仕事、バランスの良さ、まるで石の奥の奥まで見透かしているような眼……。これまで、伝わってくる、自然と手を合わせたくなる……。

石と対話し一つになつた先人の神業に圧倒されました。

私の生きる現代、便利な道具も、どんどんと産まれ、たくさん情報が飛び交い、それに惑わされ流されて……。

先人のような、研ぎ澄まされた感覚はあるのだろうか？

しつかりと対話できているだろうか？私は自問自答している。先人の残した祈りのカタチに出会うたび、技術はもちろんだが、その心は……。学ばなければならぬ、もつと石を叩き、刻み、石と対話し、石と一つになれるようにならね。

先人の祈りのカタチ・心のカタチは今を生きる私に沢山の事を語りかけてくれるよう気がする。

訪ね（過去）・学び・守り・創り（現在）・伝え（未来）・次の世代へ。



一石六地蔵（柏崎市善根・飛岡）



火伏せ地蔵（小国町八王子）



狛犬（小国町八王子）



龍頭観音（柏崎市宮之窪）

事務局だより



◇第20回石仏フォーラムのご案内

日 時 11月13日（日）10時～15時10分
会 場 新潟県生涯学習推進センター
2F大研修室（県立図書館並び）

第一部 10時～調査研究報告

「三國街道を越えた双体道祖神」

長岡市 遠藤 勝氏

「新潟県の出羽三山信仰」

新発田市 鈴木秋彦氏

第二部 13時～公開講演会

演題「産育文化と石神仏」（仮題）

講師 板橋春夫氏

（新潟県立歴史博物館参考）

第三部 14時40分～情報交換

石仏調査成果はじめ不明石仏、変

わった石仏など、身近な話題をお
持寄りください。

・出欠ハガキ（送付済）を11月5日までに
返送願います。

・会員外の参加費 500円（資料代等、
当日会場で）

- ・昼食を持参してください（センター近くには食堂やパン屋などあります）。
- ・会員同士、声をかけあって参加してください。

生涯学習センターへのバス（ご案内）

【行き】新潟駅南口CoCoLo南館前
バス乗り場③ 9時10分発（女池

愛宕ゆき）9時24分着 野球場・

科学館前下車。センターまで、ゆつ
くり歩いて約10分です。

【帰り】野球場・科学館前乗り場②
新潟駅南口 15時52分発

新潟駅南口 16時15分着

【新入会員】

石塚芳伸（弥彦村）、高橋正明（湯沢町）

◇新刊紹介

『新潟県十日町市松代地域の石造物
松代のいしぶみ』

B5判、213頁、4000円、十日町市
博物館友の会発行、平成28年6月刊

26年度中越地区見学会でお世話になつた
山本篤子さん、富沢康子さんが所属する十

日町市博物館友の会「いしぶみ研究グループ」が、松代地区での長年の調査成果をまとめられました。カラー写真と所在地図を多用し、ガイドブックにも最適です。巻末には500基の石仏データが集落ごとに一覧できます。問い合わせは同館（TEL 025-757-5531）へ。

新潟県十日町市松代地域の石造物



十日町市博物館友の会

編集後記



七月の秋田県南地方の大きな藁人形や仮面を中心とした見学会さらには九月の柏崎・小国の大名工の石仏見学会、第三四半期は、満足度100%でした。

（中越地区事務局・山崎利雄）